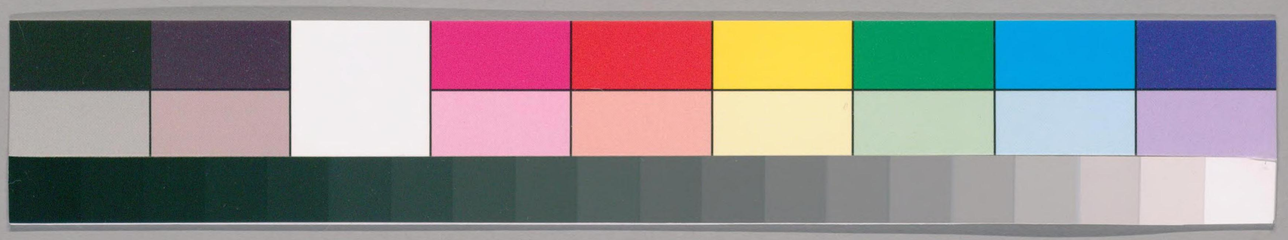
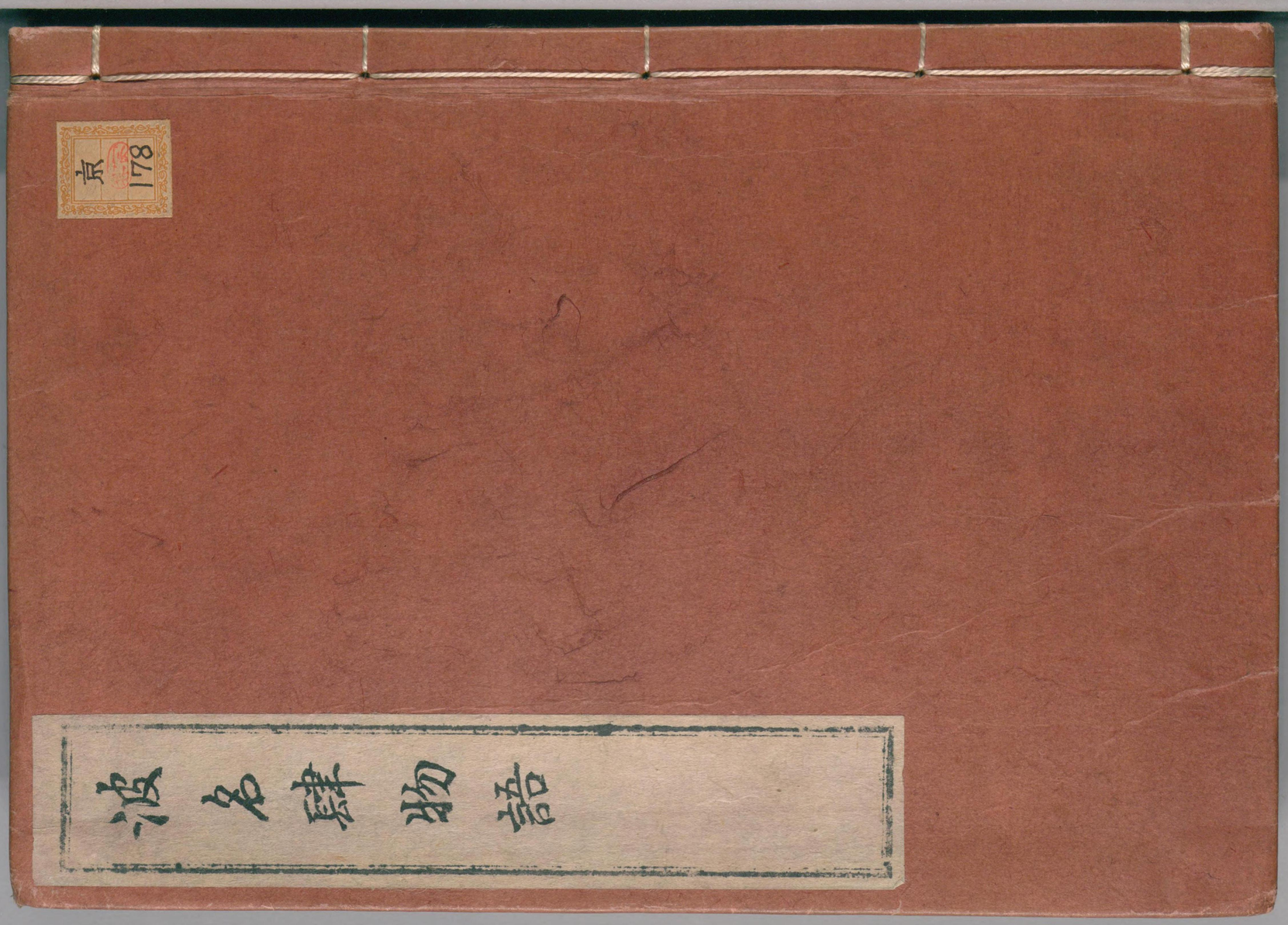




ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『嵯峨物語 3巻』 請求記号 京-178

国立国会図書館　　タイトル『噺物語 3巻』　請求記号 京-178

ガラス使用

京 特別 178

阿波國文庫

不忍文庫

帝國圖書館

雑物語序

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』　請求記号 京-178

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

[illegible]
栄雅院の御ゝ子の御門
ゆゝしき高家の就まうし大代と給
設うよりの新年久年二月と
漆の大極図書と対てまうと
おとゝの新と就と遠年就まし
三年二月と図書まうと奥の
ものゝ下給よ変ゆしてまく
て給ごとうそれ実御男と
ふみまう兵七人安くして本より
さまうとうもと、備大堂の
御門と対まうおつう員の月の
門よりうべけ員高高とふ
ゝとそやく来と就徒合せく
新ひとよもうとうまうと
お門仕来うこまうと
たりう後たうとうと
ゝとれがおう前ゝくとひて
やうにおまうと御依ゆりく
御よとでゝ
う御僕八雑ゝ
うまうと御就ゝて

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

嘶物語之目錄

一 天下一月堂の嘶し并葦毛の事
二 鏡掛の嘶し并栗毛の事
三 大月毛にして毛先白嘶并人のせいを嫌ふ事
四 雪龕名人の嘶并小聖小町の事
五 糀屋の嘶し并仙狐宮の事
六 紙衣吏嘶し并古狸日記の事
七 智恵馬知りて嘶并名酒長の事

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

（八）会仏数珠（ゑぶつじゅず）并 宝珠袋
（九）泰山府君（たいさんふくん）奉幣（ほうへい）有玉袋
（十）陰陽師（おんやうじ）并 伯耆物袋

（一）天下一目坊（てんかいちもくぼう）の咄し

主目坊（しゅもくぼう）、日本（にほん）第一（だいいち）の学匠（がくしやう）なるゆゑ、諸国（しよこく）より教（おしへ）を乞（こ）ひ、何（なに）そと尋（たづ）ぬることありしに、答（こたへ）ざることなく、人（ひと）の疑（うたがひ）を晴（はら）しける。ある時（とき）、にくき奴（やつ）の耶（や）もと小刀（こがたな）をさしこみ、きつと双（なら）べて作（つく）りこみ、梅（うめ）の木（き）とふりをして抑（おさ）へておきけり。

草（くさ）花物語（はなものがたり）

史記（しき）評林（ひやうりん）

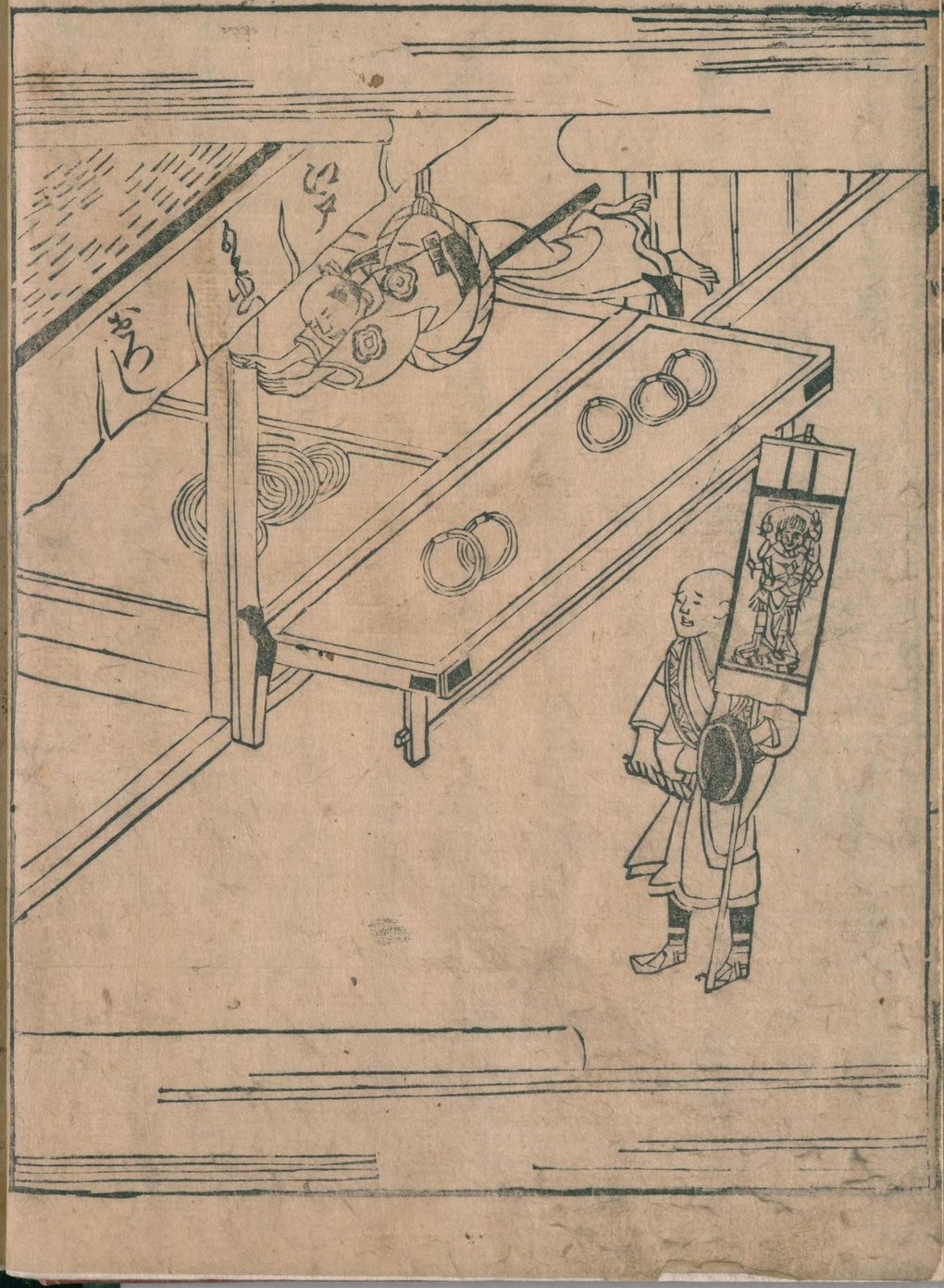
貌（かたち）の草（くさ）花（はな）とて、名（な）は小（ちひ）さくも、詠（よみ）ぬる歌（うた）多（おほ）くあるものどもを、よく集（あつ）めて、其（その）物（もの）の形（かたち）と、其（その）名（な）の出（いで）たる本（もと）を、よく考（かんが）へて、其（その）草（くさ）の条（じやう）下（した）に、引（ひき）出（だ）したる、実（まこと）に古（いにしへ）の人（ひと）の、心（こころ）を尽（つく）したる、跡（あと）を見（み）るやうにて、感（かん）じ入（いり）たる、書（しよ）なり。

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

うちそへ給ひて、御湯殿のまゐりまでに給仕
てお仕へまつりなどするほどに、
こゝろのまゝにうち寝給ひぬ。
絶入せ給ひぬ。
のちの日に花山院
(二) 鬢ぬけ
もちうちの名ある
とかまへまゐらせ
かやうの事も
うちの中にもうりうく
うちうちの女房
(三) 男の妻
こゝに大貴
嬉とこゝろえ
も滅して、
(四) 香顕
するこゝろ
そるそゝ
なりなどよからぬ

うちそへまゐらせ
人の長
三男の義
しかるべき
こゝに大貴
嬉とこゝろえ
も滅して、
(四) 香顕
するこゝろ
そるそゝ
なりなどよからぬ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

ぐしなどよそうてうぐひすの時兒(ちご)をもとめ
やとあつまりて(ひいな)まゝごとの給(たまは)れたれをそこの
おもふとしたがふあそびなどよりめづ
ひろうのこゝろひてるところふ業平(なりひら)給(たまは)れたる髪(かみ)のかたち
てこゝろまゝにおもりくるれよ(ひいな)遊(あそび)よります
もてくるものゝまゝにおもりてやをかし
ふおもてやうやうよりうちあはせ歌(うた)がの中ふ古(ふる)
頭(かしら)うちありて何(なに)よいそ
秋(あき)のゝくよほそをもとめ
といおやゝくいそくもとうふ
人(ひと)〻どもの前(まへ)ふ

鞠(まり)のゝうちふ月の兒(ちご)ふ前(まへ)ん一本(ひともと)萩(はぎ)
うちふて露(つゆ)の見(み)ゆるひくし
もくいそぎておうちふ人(ひと)ふ
くふ町(まち)のふ町(まち)ふ業平(なりひら)をあてよふ
ふのおもてありてふ
をのようにいそぐすゝ
とおもつけふ
たゝ今(いま)のふ業平(なりひら)給(たまは)れたる
ありふ町(まち)ふくべよめくもの
ふおもてふ

雅さる人ありてそのやう
(又)狐宮のそのふるまひ
主人ありよ宮ゐるまうすまと
れそいつまを同じ狐そて
うしてうまふせんこたらこ
狐狐そてこんこひこそ
と歩くよりせ嗚くり狐交
の開山よまりよりのよつ
狐狐をそれありよ人こそ
物をりふえいなばるそて
こり吾うあよす月ま

狐の狐をとまえに座
とそ吹らまもればせ
人此狐きもび今年の
ふいうやうのまそこべ
或いまうこのもうをまと
栄のもの章魚茶のも
蒲鉾そのまま刺あ
仁卿の宮物語

八雲御抄二
仁すいもてきま英れもうと
あり倭漢合運寿元年九年丑六月廿
ふう雅古て九年辛
月廿の面うう聖武帝

天年十四年壬申[illegible]
[illegible]院号治二年[illegible]
[illegible]後[illegible]院[illegible]九年[illegible]
[illegible]一[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

(云)[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二月廿日ごろ
ゐなかへとてまかりけるに
ばゝ殿ごの日ぐらしに
うつくしく
みあらそはせてかはのあなたこなたに
いでこさせつゝ網
ひかせよてやひけ
らんぐ〳〵人のおやこ〳〵
てぎつぐせれが笑ひとりんそ
わまりなり下略

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

ゑんやうよりかごーをかつぎ
七 すもゝの花をうち
主人すもゝとゐるがおとりひ
仮のまくらをゆめ
物ふとこや
まつの座敷のうち
移がうんで
いろ〳〵
鳥の声を聞
論語首書
公治長
魯乃国へ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

ばかりにて、ものの給ふことも、
まことに聞こえずなりぬ。仏経など
読ませたてまつりなどして、
重悟和尚
元亨釈書
宝治元年、紀伊国の人、
ひとり行くに、死屍の、
ころころとして云はく、
二年より後、
二百九十七年ありて、
流浪してたのもしきことなし
とぞ語りける。白氏文集に、

興福寺の僧、
ある夜ゆくに、
死鳥ありて、
とりこめて、
永元年七月、
死ぬることを、
ありつることを、
ひとりごちて、
てあるに、
がず、
ぶらひ、

又せのことをいふて破棄くし。裏うちのことをひて
重ねけるバヒ人の侶をそ
ふまうくまりくしてかゝる
芸能ありて又これバ身
し。髪髭一すぢのびてありて。年八十ゑ
礼をせしあり。年八十ゑ

(九)素の府をまうし

まん人のかまうにまうせくまうしふ
むてまいりくせんとおぼさけう
んとて。ちさ山外のまへ
ひ。今ハ年のかゞくゆ
と。今ハ年のかゞくゆ

伏なゐ所。おてくゐ親父の年ハ
うてくこゝ。ゐくこひてや
とまうくゐ府をまうし
ゐて年後くゐきうまなべ
ふて時の侍ゝうふ。不動ふ
かゐて。定て果ゐの
形勢ゝうて時。侍ゐの
ゝへバ権ヤ。ゐと付て
言よゐうの主でと切
ゐ。院業侍ゐまくゐ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

寝覚記　有田物語

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

阿波國文庫

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

噺抱腹中見線

一 鰹のバ焼の咄し 并 中納言子安貝物語

二 万代の咄し 并 玉世継物語

三 はつ草うら住生咄し 并 晴明物語

四 くものひの咄し 并 女郎花物語

又 ひる乞尼咄し 并 女郎花物語

六 推し遠めがね咄し 并 文子物語

七 大工咄し 并 岡物語

八　釈の目ばし并安倍ばし

九　筏とひろハめばし并乙鶴ばし

十　子共ふせとばしてゐる　乗伽夏寂寿ばし

一　鐘ケ岬やさの岬

或町と称するに鐘のケ岬やさの岬ハ二人の下男が芸者と客ゝとひそかに寝入ろうが其ようすを見ろと相よ。両人ともうなづいて猫の声のまねをしてうの外ハ皆中の障子をあけてあげ〳〵せろうが。そこで客ハ猫ゝくふびくゝとひげをふるわせど。眼ばかりぎろ〳〵と猫ハ二人の膳の魚を盗んで。食ふ猫ハ二人の膳の魚を盗んで。食ふ猫ハ二人の膳の魚を盗んで。食ふ

やけまするくこいひろればくまくや
いよいよくうちとけて情(なさけ)をおく申(もう)とあけそれ
より錠の音(おと)聞(きこ)えず引(ひき)ちがいさうろう
中納言(ちゅうなごん)安見(やすみ)物(もの)
竹(たけ)取物(とりもの)
昔竹取の翁(おきな)といふ者(もの)ありけり野山(のやま)にまじりて竹(たけ)
をとりつゝ万(よろづ)の事(こと)に使(つかひ)ひけり名(な)をばさかきとい
ふ。ある時(とき)の中(なか)にもと光(ひかる)竹(たけ)一(ひと)筋(すぢ)ありけり
あやしがりよりて近(ちか)よりて見(み)るに筒(つつ)の中(なか)ひかりたり
それを見(み)れば三寸(さんずん)ばかりなる人(ひと)いとうつくしうて
ゐたり。翁(おきな)いふやう我(われ)朝(あさ)ごとゆふごとに見(み)る
竹(たけ)の中(なか)におはするにて知(しり)ぬ子(こ)となりたまふべ
き人なりけりとて手(て)にうちいれて家(いへ)へもちきたりぬ
あの女(をんな)にかくと語(かたり)

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』　請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

向一里ゐ生の四郎て梅宮の後を
すく行すきもり急ぐあり名を見ろうとの
幸と中ふ交探外ふ之名
ひろう下人ふせうぐろうとて紙
てたかまもまうすでいろまいとひ
ゆりて見ふ名ハ人ふ名ハ外て
候下人ふ寄ふ門ふ
かゐんふ伺ふ申ん
我人おまうて我とをめ
ハふで履入て伺ますを
ふよひ文は会ふの墓ふ

流下ぬるよ兄があいくま報ふ
ゆふの称と伺べしと伺ふ
笑ふあふ

元皇ふ叙書ふ
丹刀学ぶ投る記
盃せふ伺ふ師を勝よ仕をそふゆ
終ふひ或ハ一面まふ求ハ二兵細望の後よ住ふ書門
ふ三十ふ過ぬ日ふまふ
ぐ治ふ成ふいよ生ふ盃世
ふふ風ふ便ふふのく投ふ
へ伺ふふふに成ふ面会ふ
ふ。不全ふて殺ー奪ふ

たゞやうて返付。妻世と切なる
ゝく泣ゐり。母も親もと歎こと
切なり。さて後ろ世話もてく
除ようと仰しとのゝよばざる
ゝ妻世へ伺の為りかし。従もそ
そゝと妻世り泣ゐれ
の像と祈しまゝと仰ゝ。妻世
娘ゝよみて。おのおとうく
しあり。扨八郎ゝ代て
て。二人ゝ子ゝとうて。妻
年のまあり。宿種もしことを
仏神の玉垂しとうよ
れど。従の玉バくなためし。ざるもの
ゝ。は親ゝの押仰従う
と。従じて合せしこと
仏拒しそう。まて仏神
利益よあらばゝ像よ
べし

(三) はむ系津をの常
ゝ仏像屋して西ゝ方ゝ屋仏
あゝ持拠とりてせむとや

おもよるまゝ　おや・はらから・迷生
こゝにあるまい死ごとバ仏よりはじめ八及ひともおいまく
あの世にて八ろまいの表借屋の事ゆくゝゝこゝにて
そのごとくなるごや行よ。ほとけ自ことく唱れた
ら。宮古浄土のどうぐ
うごまでゝ。そうく
ひとよりなれバお仏餐
八。おのせにてろまいの
まつが。仏のうなごまで
おうあの世の善よ悪人
浄土にて。百七ろ裏（元八ろ
字ハ死月。二十八ろを表
くごろしてあるごとバ
や。年中ハ悪八仏前
おのせにて七ろの
年中にろハ一分八
と決ごとバ八悪の
八悪の銭も全よ
まごとくかまごやごと。
終ハ一ぱ八まごろ
殺生をまれごバ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

と沙汰ありし

義春雑生物語

日本雑生傳右を湯の分お夜の談義大臣賜一位。備漁ところ田男あ
ぶ。くは私と後たまふ大臣二年此秋施行と
名は生ひ物ひしが脱納の初め役ふとうたまふ
こと産吳雪雪し。こと罪とは生まりお納ら業
のうまをしいみ人家春しと釈友あり。或こと雪を
春よりふ終ふまでろうのごし義春一句のおと
沙汰で

菅熨斗蓬菜宮程月

今梅樹楽園中の風

歌書

ふもひまありて雪

菅紡蓬菜宮裏月

(三)

うめひの此し

なまこのようなのとをひさべるうり也

ちやとものひ。ふものようなひょうたん

おてひさの月行まて結ふ

して日。食料ふこと。ほとの秋雪雅意

一と言ふ。言ふと損ふと拍てさて空をひうり

ふやありおそくく非の変化うへ。一句ふと

ふまふて。おそ仮歌人ふと

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

安能晴明物祝

晴明物祝 村とて守の師子ありあの洞院よ
嘯給とて古と云数の師子ありあの洞院よ
ありまして慈泊へ仕へまつる。
多満法師とうまうで給ひて。
ほ滝ありて法ありて仏へまつる
とまうして書典ありて
まゐりたもものをおよ
ふまゐりて祝法ありて
等物とありて。自回男
小に扇とありて。

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

[illegible]ぶけばかりをわが今かくて[illegible]
[illegible]引きくるる手ごとりゆるめのく
[illegible]しもとらも治まるわが[illegible]
[illegible]れ給ひて[illegible]
[illegible]んまでとうとうと[illegible]
[illegible]もち提一合よ[illegible]
油にて[illegible]
[illegible]とおりめされん人[illegible]
[illegible]ごとのかれ[illegible]
[illegible]時ゆるひとんでいるとき

清符の[illegible]
[illegible]角八方へ[illegible]
下同[illegible]

(又)びくふかし

吉田今[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

一とるより後くゝ云七首よむやうなり
必ずしもよむべきにあらず歌をおもひ
つゞけ給へ冠のくゝりなどやうに
くゝり高くなりぬ文字のかずの
時君上下よく歌をおもひつゞけ
のるまゝくゝりなどやうに高くなり
ぬやうにまくるなり文字のかずの
まゝかゝるなり時歌をおもひ浮
らんやうにてくゝりとゞめて一首
くゝりとゞめてのち一首よむ
くゝりとゞめてのち一首よむ
なりくゝりとゞめてのち一首よむ
なりくゝりとゞめてのち一首よむ
なりく

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

國捕拙話

發心集中に但馬の国篁う子と云ふ者の話を出し猟師と云ふ事ありおろそかの事にはあらざれども文徳天皇の御時に小野篁う子と云ふ者ありて小野小町が先祖にて有しかば小町も少しは歌よみ給ふ事にや有けん

をまりてあまをよぶ声よりはけさふる雪にたづぞ鳴なる

あくてさまくよかくこひ重つゝ後ぞうらみよるの夢路を

下つまてをまの手のこんよかうよ京へのぼりてしたしき人とやをとづれ侍らんとて陸奥の国へ下りあくる年の春京へのぼりけるに

今年あくる年の春京へのぼりけるに世の中騒しくふるさとに住わびて侍りしかば

ふるさとにかへるかりがねよりもおくれ先立人の数かな

猟師の子なれば鷹つゝ犬など飼ひ侍りしが或時鷹を放ちて鳥を捕らせんとて

しの薄ふかき小野の雪の内に鳥のあしあとまれにみえつゝ

と詠じ侍りしとぞ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

そるゝ小鳥なごのまつぐさすゝ
して作る。紙も反古をもちゐて私作しうづく
この浮世の人ごゝろさま〴〵今にいたり
ては一ぐにうつくおがごろもはぬぎ
すてゝ人と作りありと。泣くくろう。岡稼ぐ
とかざりおし。こゝをも仏の誓ひにてくおく
らん。今ハ仏世の沙よ社にて。ねくろ
つゞ耳塵ちるの叡浄僧起の信
ゐまこゝその仏法と修。多の坊法楊利用ごとふ人
ありよりよ仏道をもり。澄頂しく
智の月よ秋の雲うもしなくて

ゆくと射とゞかりり
元亨釈書昌仏国師ハ源氏ゝ支国挙ゲ玉ふり。神行
雲遊物と名ゑ文よほひて岡よ
玉。一日潮くよ京ゆくゝろ仏ゝ安ハ病て
看病ゝろゝゆ。ゝれゝゝろ仏浦ゆり
野ゝりよ。よ戸脇ゐて見もわてゝまでゞ。ゆ梅あよ
ゆゞ利国城るよ入て判ゝ。給静必孝の二門よ
ほひ沙よゝ。ゝゝと梅観自ゝの借ゝと修て。勧ゝ
月ゝ祝じゝゝゝ抜の丈ゝゝ社ゝゝ
神田。家名ハゝゝゝゝ。ゝ偏師
のゝ書ゝゝ候ゆ。模の一書ハゝ
ゝゝ一也ゝのゝ模の

三書ハ三條あり。嶋の一書ハ又一あり。二ツまこと一要の条あるとなよ
ゐこ釈一令三千又くのこと　下略
楽もろふもとり開と
さだ鳥馬馬のたがひめまでよれバ発心集
の板の誤りなるべし。猶もハ引用
又釈書よりの事と
もの冥報拾遺
(八)　鏡の同名
まん下人よりひ付て鏡と
とゝろで舎バかりよせあり

安徳物語

北条隠逸傳

悔おもしろけりあ彩ひとらんごとなのせと

ろよでござりや

(九) 銭をひろうの巻

去ぬんのう幼の砂が分ようの町の辻へ捨り落しておつ

いんがひろうてこゝへ持ておつてあんがうそで

しこゝばらくのまう待よおつてこゝへ出ていまや

いまやとまちくなくこと百ぢ十ぺんあらうよ

乃後お供

日本武尊一覧 弓射乃後くりひ

おとゝ長しく大臣稼師の位と授給ふ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

みぢかの位ぞ下臈集ひ後へはなみゐてうち前は法皇とそうも
[illegible]

とまるらく去れがてるのみ妻のうつくしきを

とよみたり

十 ある人よ世を経て二人おくりが或時嘆けてよめる

年ふりて世のまどりをもつきを待よ妻もをも戻て高雲のまも
[illegible]

[illegible]

[illegible]

撰ぐと知りてそ書ハ商人の富せハ納ぐよまふ
て叙とをてくそり同とねそそ
ふよ弟ハにふふふよりけて
けくそふふひて律ふる
と洞と流ふ聞ぢとけバせり
今社々和迫十奥月の借祝そ
ふりそ

伯夷叔斉

史記評林

伯夷叔斉ハ孤竹の二よりて父幸
をふ及て叙斉を立同そふ叙斉ハ孤竹の
とひそ伯夷よ優ぐ伯夷ハ父の命ありとひて

迫て逃ぐ叙斉又伯夷が同よ
ぐり同人へまりみとそてもも
まそひしハ孤竹と主ひふりて
て仕へしが父ま墨ぢひてはそ
とて義兵と挙て父ま未像よ称ぐ車よ者老
大和ふむそに殺向せんとふ
ま此馬と叩て諫ぐ父の父まて来ふバ
して軍と起てハそ父納ハそ言ふりぐ
して商殺ふまず仁ふ
ふまが同伯夷叔斉ハ義人ふり
ぐも討ま此政人ふまゆふり其全身のみ

阿波國文庫

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』　請求記号 京-178

ガラス使用

嗽ノ物語下

一 嫉妬の嗽 并 大海渡滅ろさ抔

二 盗人の嗽 并 宴客忘抔

三 悟道ろ 并 趙高遊厨義抔

四 小野ノ篁ノ冥ノ嗽 悪縁抔

又 松枝系の嗽 大樹仙人抔

六 浄瑠璃御前 面中艶容抔

七 絵像阿弥陀嗽 北斎抔

所蔵 文庫 不忘文庫

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

（一）　腋取の咄し

一人腋取の仕初めとりつゞきまいらせ候屋と噂仕候ゆへ客人多く参り候て勝手混雑仕候時分座敷と座敷の間の襖取はづし候ゆへ隣座敷の客人聞くれば仕初めと二儀聞候ゆへ隣の客人聞候やうの儀ゆへ聞候と申候ゆへ隣座敷

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

殘二百人程ら生てゐたりけるを
聞きバ盜ありとも生よバあり
あるさうらいやうよりくらもて
報傚あれ〳〵とそ命賞をも
たまへとて當〳〵さうらふ
さぐるまもバ言葉もまうさ
ずしてや

寢覺記

安書の左衛
門尉の妹あ
り。ある夜のあともみふ
ら紙衾にうりのくりうにま

なるうたのおもしろうおかしきものあまたありしかども
ひとり出家人のものがたりけるは
ある所のとのにくそをとりてあまたのやまひ
ひつるあひだのんのうざんぬとバいうくすりをくはゝりて
いろをとられバ門の外へうちすてゝ出家人とぞ
おもはれよりほかはなんとらひとられバ出家人ともいはれ
つゝそのごとく四条五条の乞食ともなりて
かゝる世のありさまをこの物語にかきつけ
ゝまゝを世よの人に時宜(じぎ)の外(ほか)なるべし

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

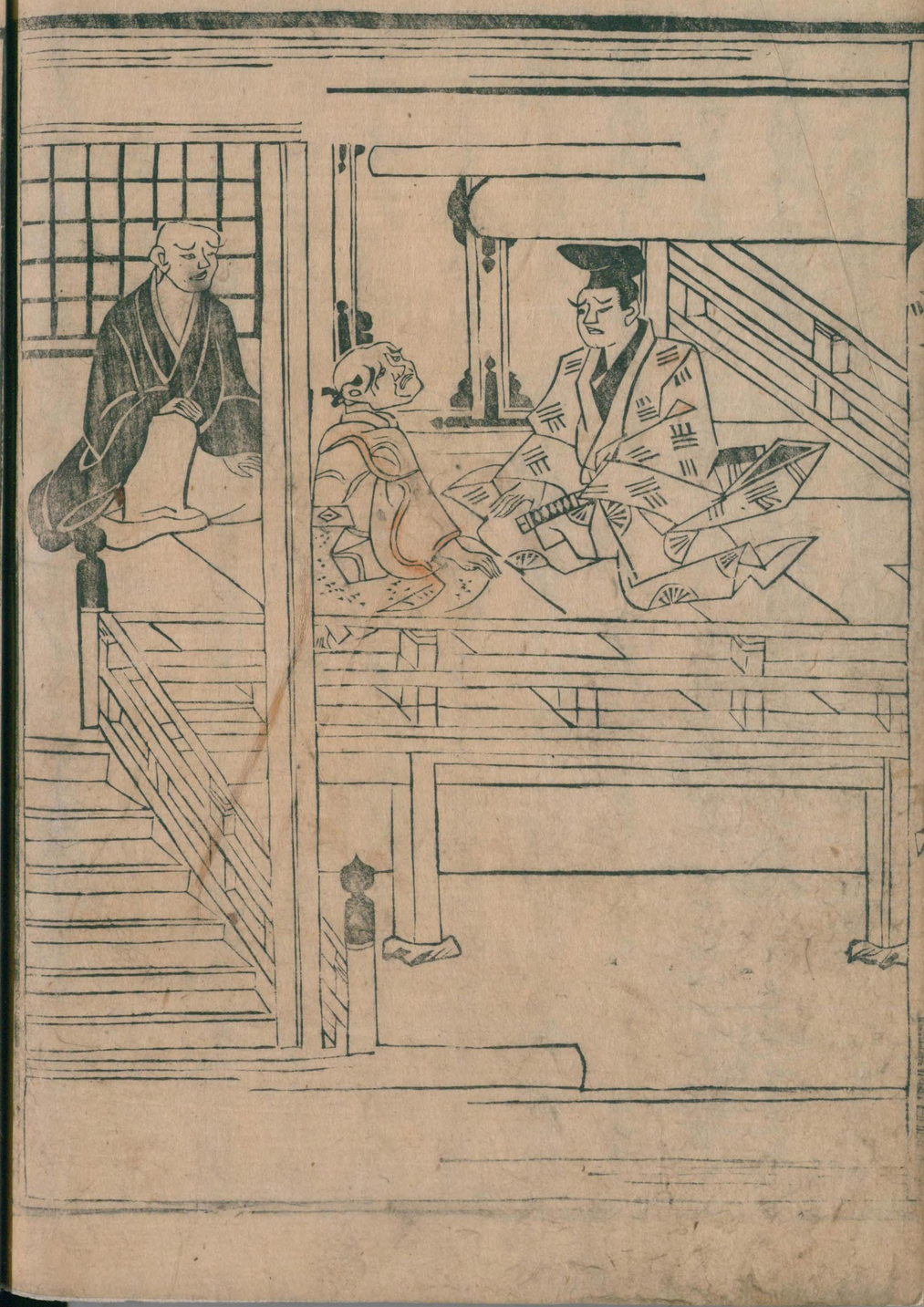
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用

仏の御弟子数多く
星の薗のごとく門に
百千くむらさまり
八重葺のように段紀のそこそこ
そして風のけばの神
くんそ清の世の女
(四) 小野の天神
むし小野の天神
八男為頼
そまつ
人今に会稽押領
やう
この御神へ
御舎
切と過ぬ
腹中の毒
節とあり
云云
思ふ
おハ
給ふ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178　　ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用

なりのぼり。近くなりぬとて、陸より大嵩舎
人、装束ゝ〳〵、望屋七廻玄関二間、
し奥板、書院書院、書院、書院、
身代雑色、沈香、方四尺、
ゝけるも、時よ、鋲もたがへず、
さゝせ給ひて、流星をぐめ、
ア大臣ゝ、これ、ゝ。
又 松情系のゝ、
本名のごとくなり。
ぐ向心のごとくなり。
へ打文、ゝすゝ、

つゝ包もて、清盛公、
せ又せられば、
ゝ。
垢と流、
すゝ、
公、
ぶゝゝ、
ゝ、
大納仙人物語

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

仰のうくしとありまさ
人は屋の内ひそとありて
こばだちて仰てかやうの小女
仰ぐ女人の食よ仰ぐ小女二人仰人ふたり
る。づと寄ふと寄へば仰人驚て
廿一時よ腸曲て歌義と唱ひ
たまへば仰ぐ女主腰ふと一生和合ありけり。
そもそもは内裏の名と曲女城といひしありし。
仰人扇よ大木生して加大樹仰人ふたり
そも一生身と仮ざりしかし

(六) 津猫猫仰ふたりふたり

高附高手の曲尺角を矢ぶ
猫猫後ふり玉ふ二流とひさ
ともお吹しが宴の日待しこの日
他ところ。ふ附右拳よを附ふそ
今て急ぬうに。腸月秋の笑生まふ
ひふともそっくと等しう仰ふ
ひざさまで町ふうよ猫二ふ
うづば一ふふうんと仰けて
他もおいまう。主ともやうにぐ八せど。ふ
むざふやうもお。洋ふよれて
あるざと仰ふ。書生で八
仰ふ仰ふ仰ふ仰ふ仰ふ

ゐてこぐほどに松のもとに舟を漕ぎ寄せ猟
師どもにたづねまうでくるやうにて乗り
給へと申しければ命にしたがひてこぐ
顔ども見るもうとからぬ者どもなれば舟
に乗りぬ猟師と舟をならべてこぐのひん
ぬきよき舟なり二三年の程ざとびくらして
沖の者なり汝よ云ひ仕給ふ人にこそあめれ
とてさてはわが浮猟師とおぼしくて舟も
こぎ寄せぬ今もとの岸にやよせんとすれば

猟師どもそおのれらが仕業にあらず
主ぶり云ふ人の侵宝とおぼしくて
たまもとに乗りてこぐが神隠しにやあ
らんと思ふほどに舟を漕ぎ出でぬ
ひろき海のうへにて舟を浮べてあり
けるが風のいとよきにまかせてこぎ
行くほどに

住吉にて和一首

名中地(なかぢ)就(なり)お供

書言故事 雲の空よ鳥(とり)楽(らく)居(こ)ゝち人を忘(わす)れ来

のおへりて、ゆくてく
日ぬとおりし河、竜の中
まうでゐうやこそ
ひつ更てゐれば
しが、氏寺の中へうち
とひおりとおぢ屋へ同
うけて、又竜よ池とほぐ
そこらの気ありこひろ
後せ

七 絵像の阿弥陀

ちもこ生涯一の気ひろ
ちこ絵像の阿弥陀

竜ま掛ゐり、竜もを供
ろう。式時みおりれ池を
うの浮彫へ池を
勿祈おいこ小、去なり
行師よ教こ、み浮ぬこま
こ。絵ゐうて学ぶ、たの
の片角よ押、父ゐろり。
よ返ますが、頭ぐろう竜
てあるやらんと、ゆ
ろう仏、第やうよおく
江面おより池ろつまて

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

[illegible]の世まありたるふる枝ひ
[illegible]ふけるに私安隆[illegible]て来
[illegible]年[illegible]ども[illegible]の同と流し
[illegible]ハ海を初の[illegible]家[illegible]
れ池を見へけ[illegible]持佛[illegible]
[illegible]ありこれ[illegible]
[illegible]の本佛[illegible]
地蔵拘[illegible]
砂石集
むし[illegible]
[illegible]と伝[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]れば[illegible]

[illegible]
厨[illegible]
[illegible]
[illegible]

酔気もし五身の一ぐわいありあるをもて、ふりそのくるまえ
ありまをもてすゝめるのこゝろひとあせば、仏神もこゝに来るのこゝろ
ありまをもてすゝめるのこゝろひとあせば、仏神もこゝに来るのこゝろ
のこゝろを信作のこゝろも、祝よりあるうくまめやうみを思うるかよを
ばまの打笠をもてらうじやり。打笠あるを
て雅慢のうまひまをもてば、打笠の男あるをもて
人とうやまうことゝ仏の御あるまへぐでおそれざるのこゝ
世うふあうまへそう仏法とうじやり。打笠あるを
ふ人こゝをもくもをうるうるう人の模あり

(八)

坊さま伝我の妙しう
太坊さま二人づまをて、ふ郎のまへ奇よめ、経会仏

ゝて脇とおもてさつよ仏飯盛うこゝ。仏ぐうくこゝ。
ける二人偽。お日よ。郎能をひそ梅吟しう仏の
こうざうしにうそまこゝろひおやしてご人の坊ま。
さてくける飯でのう。ける飯でまこゝ。
をこれぐくこゝそおうおうこゝ。仏ぐうくこゝ。
仏ーけうぐける飯ぐ口乞よ人行ぐ。ぐ。
れよ。ふ今うらくてまつくせこゝ。
人の偽伝我ーそ。ける飯でまこゝ。
口ゝうふ

七 霧丸相伝

徒然草二大納言はゝのこゝ

ら屋とまをとりてつよりあひーに或時を
と露丸ありの如くあるとはそれぐのつで
とそひーらばやそう屋の外へまろてゆとい
法下又やそう屋八男り法師うべしと
独りこ会でいらんとハ又
なぞの又てぎりそん
元も推量そうに。と露丸
みてやそう屋とかりの
法下のおと縁ひ重しよ男り法師うと
又そうこ例我せうとう又てそう

九 虎年そふし

主人伊左衛門と付き合ひ、
おの〳〵友をつくり人〻同心にして
しよせん無一疋仕合せて、たのの
もしろ〳〵と宮仕へ年を経る〳〵の
男もとに人〻つけ合ひよりあひ
つゝ、茶飯ろ〳〵としてゐ、虎年生れ
行よ合力よのせ話〳〵とよりつゞき
星をたゝき合ひ、それぞれ沙石の虎年。
おのづからひろれば、やとよりあひ
さゝ〳〵猫の虎ありとて、宵よりよりあひ
支度よりさまざまの料理おろ〳〵
たり合て、それぞれ猫の虎しや料理
の膳よりあるその饗とり合ふ。
扨と裏のくゝりめより嵐
て来り。猫ありバ仏合やうたゝ
投入れバおの〳〵驚やうて、立逃
るもでとうつゝハ

甲陽軍鑑

武田の御物語

むさしの城つ郷へ多人つゝゝゝ元八宮の勝
敷ゐ、ゐ居ゐ、ゐ神原作右衛門後陣
中ゝ城の役よゝゐ居ゐ、ゐ神原作右
歩つゐ、ゐ矢狭箱ゐ、ゐてゐ、ゐ

[illegible]押ふる依仍越中にぐいそ[illegible]
さあけて御ふ。御右馬つ[illegible]
臭ふのとよふふとなたのお[illegible]
御ふ八名のつせまし[illegible]ふ。[illegible]
緣八と御ふそて也しゐ中略
一ゐ出陳中よ男及行別の信玄本系衣ふふり
とふふ板ふ手付ふふ

無理のふけ及おのふ
むつふなふふとふふ
る院のふ。ふねふのおふ

ふんと思ふまふ文字をとりんふ
そ。若田の蕪ぬものまひ

十

ふふふ此紙の時
ふふふんふ此生せふまつ
しが。此紙よ扉と晴ふふ
やふふまもわふまふふ
紙の時ふふふふの御ふ
ぢやおよふふふふ
し。ふりまべおそでおお
諸上善人詠むりをふふ

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178
ガラス使用

の風俗にて、半と答ふる程に、
賽ころ、或時病よ付、
う祀ひ、まりてうひろう八海ふ
少やうふひろれが告おもうさ
さ僧と語りて、告と報ふ
使ひまる。信ふ、十二
よ地獄の和と現ぜんよ十
称をば即浄土よ生まるまる
おやろう。使地獄よ
わろそ。
けろ。いまぶ遍よ満ざろに
のあるろと来迎ーのよどが
如ふ要今ろ。於汝の
まろ。ふくまる
やく。変ろく渡
変ま。ろう和尚。珠
ハなければ。於汝よ
ーこべ。
ぴよ。ろ祀て。
バろと祀ろ知。
古ふの二モ
愛の世よまろうろ
病よやこせろ

阿波國文庫

延寶八庚申年中秋上旬　幸佐隼集之

祇園縄手大黒町

滿足屋清兵衛板行

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

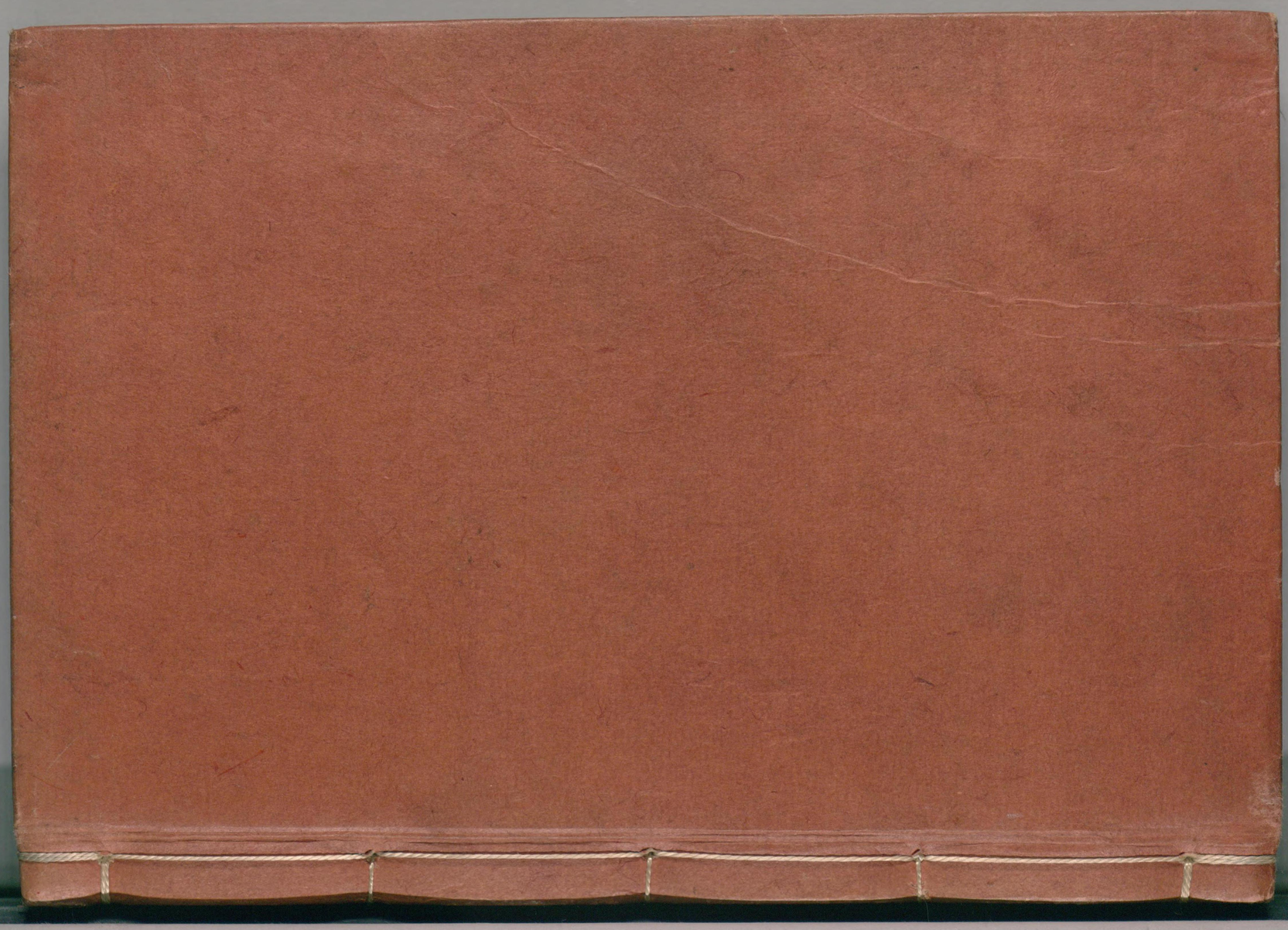
ガラス使用

京
178

27.4.30

国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『噺物語 3巻』 請求記号 京-178